

# 県産木材で住宅建築を

ヤベホーム(諫早市)など県内の工務店5社が、一戸建て住宅の新築・リフォームで県産木材の積極利用とPRを図る「ながさ木住まいの会」を発足させた。5社は諫早市で県内初の「県産材住宅団地」をつくる計画で、15日には大村市で啓発イベントも開く。



県産材の利用促進に向け氣勢を上げる「ながさ木住まいの会」メンバー  
 〓 諫早市多良見町、木の「コトミ」

## ヤベホームなど5社「住まいの会」発足

ほか4社は、浜松建設(諫早市)、四季工房(西彼長与町)、馬場住宅(大村市)、玉木建設(長崎市)。9月に会を設立し、会長にはヤベホームの矢部福徳社長が就いた。今後も会員企業を増やしたい考え。

新築住宅を巡っては、約40年前まで、地元の工務店が地元の木材を使って建てるのが多く、地域への経済効果も大きかった。その後、輸入材や新建材の使用が拡大し、大手ハウスメーカーも台頭したという。

5社で年間120棟程度を新築しており、それぞれ土台部分に、目詰まりが良く、シロアリにも強いのが特長の対馬ヒノキを使うなどしてきた。諫早市真崎、栄田両町にまたがって整備中の住宅団地「いさはや御館の丘」では、来年5月以降に家を建てられる41区画中28区画を5社が受け持ち、土台部分をはじめ、床や壁などにも県産材を使う。

今月15日には大村市富原2丁目の木の「コトミ」ユージアムで、県産材などを紹介する「ながさ木家づくりフェスタ」を初めて開く。

諫早市で3日、発足式があり、5社の経営者らは「健康にもいい木の家の魅力を多くの人に知ってほしい」「地域の発展に貢献したい」などと抱負を語った。

県林政課によると、2015年度の県内木材生産量は14万立方メートル、15年の生産額は10億1千万円で全国では下位という。

(田賀農謙龍)